

(別紙)

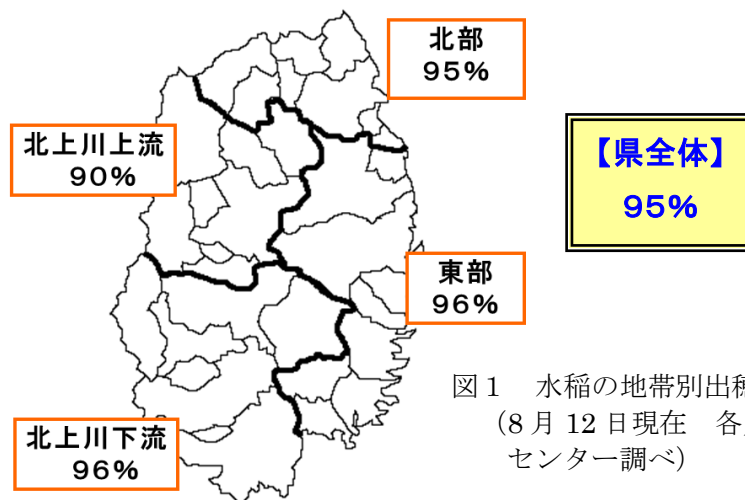
### 水稻の出穂状況（8月12日現在概況速報）について

- 8月12日現在、県全体で95%の水田で出穂したとみられる。  
地帯別の出穂割合は、北上川上流90%、北上川下流96%、東部96%、北部95%である。
- 県全体の出穂始期（10%出穂）は8月3日頃、出穂盛期（50%出穂）は8月6日頃であり、出穂は平年並であった。

表1 水稻の地帯別出穂状況（8月12日現在 各農業改良普及センター調べ）

農業地帯	出穂期								
	本年			平年			平年差（日）		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	8/2	8/7	(8/11)	8/3	8/7	8/11	-1	0	(0)
北上川下流	8/3	8/6	8/9	8/3	8/6	8/10	0	0	-1
東 部	8/2	8/5	8/9	8/4	8/7	8/11	-2	-2	-2
北 部	8/4	8/7	8/11	8/4	8/7	8/11	0	0	0
県 全 体	8/3	8/6	(8/10)	8/3	8/7	8/10	0	-1	(0)

- 注) 1 平年値：平成18年～27年の10カ年平均値  
2 出穂割合：市町村ごとの出穂している水田の割合  
3 出穂時期：市町村単位での判定。始期：10%出穂、盛期：50%出穂、終期：90%出穂  
4 カッコつきの数値は、推定値である。



### 3 栽培管理のポイント

- 開花終了後は間断灌がいを基本とする。早期落水は、収量や品質低下の原因となるので避け、出穂後30～35日経過してから完全落水とする。
- 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月11日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が80%と予想されている。  
気温が高い日が続く場合（概ね日中30℃以上、夜間23℃以上）、高温による玄米品質の低下を回避するため、積極的な水の入替えにより地温の低下を図る（特に夜温の低下に努める）。用水の状況から可能な場合、掛け流しを行うことも有効である。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「やや多」の予想である。水稻の生育に合わせ、穂揃1週間後の薬剤防除を徹底すること。
- 穂いもち病は基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。
- 収穫時期が早まることが想定される。刈取時期に関する今後の情報に注意するとともに、コンバインや乾燥調製施設の清掃・整備は早めに行い、適期収穫できるよう準備すること。